

YNU Action Plan

June 2017 Issue

横浜国立大学 アクションプラン

グローバル・エクセレンス大学をめざして



学長挨拶

21世紀に入り、経済発展の軸がアジア中心にシフトするグローバル新時代をむかえ、社会制度、文化、宗教、習慣などの多様性がいっそう複雑になり、世界の持続的発展に障壁となる諸課題が顕在化してきています。日本社会が直面するこれらの課題の解決に国際的視点から貢献するイノベティブな人材を育成し、世界に向けて新たな「知」を創造・発信することが求められています。

グローバル新時代の課題は同時にローカルな課題でもあります。本学が立地する横浜・神奈川地域にも産業構造の変化や大都市問題のほか、少子高齢化にともなう郊外住宅・団地の荒廃、人口減少、水源・里山地域の衰退、火山・地震などの自然災害リスクの増大など、さまざまな地域的課題が押し寄せてきています。

横浜国立大学は、文明開化の発祥の地であり、高度の産業が集積する横浜に生まれ育った都市型高等教育機関として、自由で高い自律性を保つ堅実な学風のもと、実践性・先進性・開放性・国際性を精神とする教育と研究により、社会の中核となって活躍する多くの人材を育成し、世界と日本に資する研究成果を発信して社会に貢献してきました。

本学の歴史と立地をふまえ、さらにすべての学部・大学院が一つのキャンパスに存在する特色を活かし、教育力と研究力を一層充実させ、研究分野のみならず教育プログラム、学習環境、キャンパス環境、社会貢献などの分野でも世界で通用する一流（エクセレンス）の水準をめざす「グローバル・エクセレンス大学」に向けて「学長ビジョン2016」をまとめ、それをふまえて「YNUアクションプラン」を策定いたしました。

2017年6月

国立大学法人横浜国立大学長

長谷部 勇一



総論

21世紀グローバル新時代で活躍できる人材育成を、横浜・神奈川という地域に根差した文理融合キャンパスのYNUで実践し、分野・部局を超えた横断的な教育、研究、社会貢献を推進することで、グローバル・エクセレンス大学をめざす。

学長ビジョン3つの柱

Vision1 グローバル新時代

YNUはアジアを中心とする新興国・途上国に着目して、世界と日本の持続可能な発展を追究します。

Vision2 文理融合

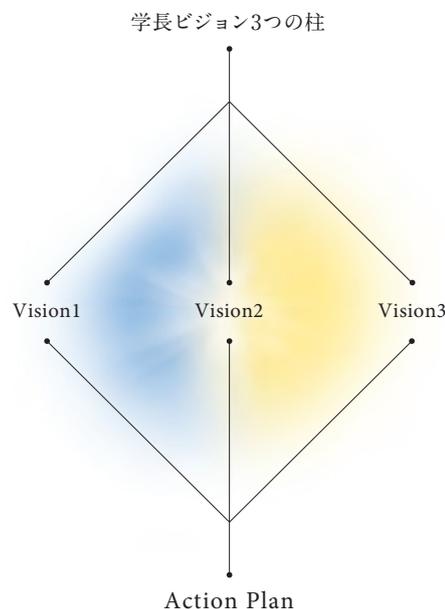
YNU独自の人文系、社会系、理工系の「三層のイノベーション」を進化させる文理融合を推進します。

三層のイノベーション

- 第1層 … 科学技術
- 第2層 … 科学技術を社会実装するための制度や社会システム
- 第3層 … 社会を支える人間の価値観やパラダイム

Vision3 グローバルとローカルの接点

グローバル化の進む横浜・神奈川をフィールドとしてローカルな課題に積極的に取り組み、それをグローバルに発信します。



Action Plan

第3期中期目標・中期計画における「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」(国立大学法人評価委員会認定)

1. グローバル新時代に対応した全学一体の教育機能強化
2. 「リスク共生学」に基づく教育研究拠点の形成

1

グローバル新時代に対応した全学一体の教育機能強化

グローバル新時代に対応した人材育成、新たな学問やイノベーションの創出、及びローカルとグローバルが直面する複雑で多様化した諸課題の解決をめざす。

取り組み ― ①

グローバル新時代に対応した教育組織の改編

- 都市科学部の設置 ⇒ 未来の都市を担う人材育成
- 教育人間科学部の改編、教職大学院の設置 ⇒ 大都市の教育人材育成
- 経済学部及び経営学部の改編 ⇒ 次世代ビジネス人材育成
- 理工学部、大学院工学府及び大学院環境情報学府の改編 ⇒ 付加価値を高める理工系人材育成

取り組み ― ②

教育体制の強化

- 学生の多様な体験の機会（短期留学、海外インターンシップ、外国語学習集中キャンプなど）の創出
- 各国地域の歴史、文化、社会、技術、政策などを教えるグローバル教育科目群の設置やグローバル副専攻の充実
- 4つの領域を設定したイノベーション教育科目の設置（入門的基幹知・技術革新思考・社会実装戦略・キャリア形成実践知）
- 国籍や文化・学年などの垣根を越えたダイバーシティーの視野を広げる高年次における教養教育

取り組み ― ③

地域を志向した教育・研究

- 本学の研究分野の強みを活かした研究シーズの還元（地域の企業や大学との連携、社会実装・技術移転）
- 地域との交流促進（公開講座、サイエンスカフェ、フューチャーセッションなど）
- 国際都市横浜・神奈川の課題解決モデルを他国、他地域へ展開（本学の海外協働教育研究拠点や国際みなとまち大学リーグ（世界有数の港湾都市の大学連合）を通じて配信）





「リスク共生学」に基づく教育研究拠点の形成

本学の教育研究の強みを集結し、先端的研究を推進するとともに、その研究成果により、世界の持続的発展に資するグローバルリーダーを育成する。

取り組み——①

先端科学高等研究院設置による本学の強みの集中・重点化

- 安心・安全イノベーション、スマートシティ創造とイノベーション、ライフイノベーションによる3研究分野（11研究ユニットで活動）
- 学内、学外の研究者が活動し、関係機関が結集した研究コンソーシアムを形成。先端研究を遂行しながらその成果の社会実装をめざす

取り組み——②

都市科学部の新設

- グローバル教育の充実（海外インターンシップ、国籍や文化・学年などの垣根を越えたダイバーシティの視野を広げる高年次における教養教育など）
- 文理融合カリキュラム
- ローカルとグローバルをつなげる教育の展開

取り組み——③

教育研究のグローバルな発信

- 先端科学高等研究院をはじめとする本学教育研究組織と海外研究機関との連携（研究者交流（受入、派遣）、国際共同研究、国際共著論文）
- 海外協働教育研究拠点設置による教育研究活動の強化（ベトナム、中国、ブラジル、フィンランド、アメリカ、タイ）
- 留学生獲得の取組（国連難民高等弁務官事務所との連携、国際入試広報強化（現地での入試広報、HP刷新）、入試制度改革（渡日前、渡日後入試）（Yokohama Global Education Program : YGEP）

第3期（平成28年～平成33年）中期目標・中期計画要約版

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

教育に関する目標

目 標	目標を達成するための措置
教育内容及び教育の成果等に関する目標 ● 本学の強み・特色を活かした実践的で高度な学部教育を行い、グローバル社会で活躍する実践的人材の育成。 ● 国際的に活躍できる高度専門職業人を育成するための大学院機能強化。	● 国際レベルでのコミュニケーション能力を強化するための、外国語授業・制度の充実。 ● 横浜グローバル教育プログラムの導入によるグローバル人材の育成。 ● 大学院教育における分野横断型副専攻プログラムの充実。
教育の実施体制等に関する目標 ● 大学教育の高度化や多様化に対応する、教育実施体制の整備。 ● 文理融合・分野横断の追及と、グローバル新時代に求められる人材育成を行うための教育体制整備。 ● 高大接続体制の構築。	● 教育プログラムに対する国際認証取得。 ● 社会人教育プログラムの充実。 ● 学部におけるグローバル教育の強化。
学生への支援に関する目標 ● 多様なニーズに応じた学修支援・キャリア形成支援の実施。	● 本学独自の奨学金による経済的支援。海外に派遣する学生への経済的支援の拡大 ● バリアフリー化等のハード面の整備などにより、学生が能力を発揮できるキャンパス環境の整備。 ● 講義室の整備・充実。図書館施設の改善。ICT基盤設備の更新。
入学者選抜に関する目標 ● 国内外から優秀な学生を集める多面的かつ戦略的な入学者選抜の実施。	● 高大接続を可能にする入試改革、及び高大接続を推進する組織等の見直し。 ● 海外からアプローチしやすい入試制度の拡充。

研究に関する目標

目 標	目標を達成するための措置
研究水準及び研究の成果等に関する目標 ● 重点分野研究、実践的基盤研究、分野横断型研究の推進、及び国内・国際共同研究の実施による世界的な研究拠点の形成。	● 強みのある研究分野の海外との連携推進。 ● 文理融合研究を始めとした特徴的研究の推進による新たな学術領域の形成。 ● リスク共生学を基盤とした新たな学術分野の創出。
研究実施体制等に関する目標 ● 1キャンパスの優位性と、多様な評価指標に基づいた研究支援による強化体制の構築。 ● 分野を越えた研究資源の有効活用と、教職員の協働を促進する体制整備。	● リスク共生学の確立に向けた、人材の多様化・グローバル化による研究の活性化。 ● 1キャンパスの優位性を活かした研究科・研究院の連携強化と、研究IRによる評価を共有する体制の整備。 ● 分野の枠を越えた共同研究を促進する体制整備。

社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

目 標	目標を達成するための措置
社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標 ● 社会のニーズに応える研究と人材育成。知の拠点として地域及び社会への貢献。	● 自治体等との教育・研究面での相互交流や、成果の地域還元などを通じた連携体制の確立。 ● 地域のコンソーシアムで得られた成果を全国・海外に展開することにより、グローバルとローカルが連関する実践的課題の解決。 ● 公開講座やサイエンスカフェ等の充実により、生涯にわたる学修機会の提供拡大。

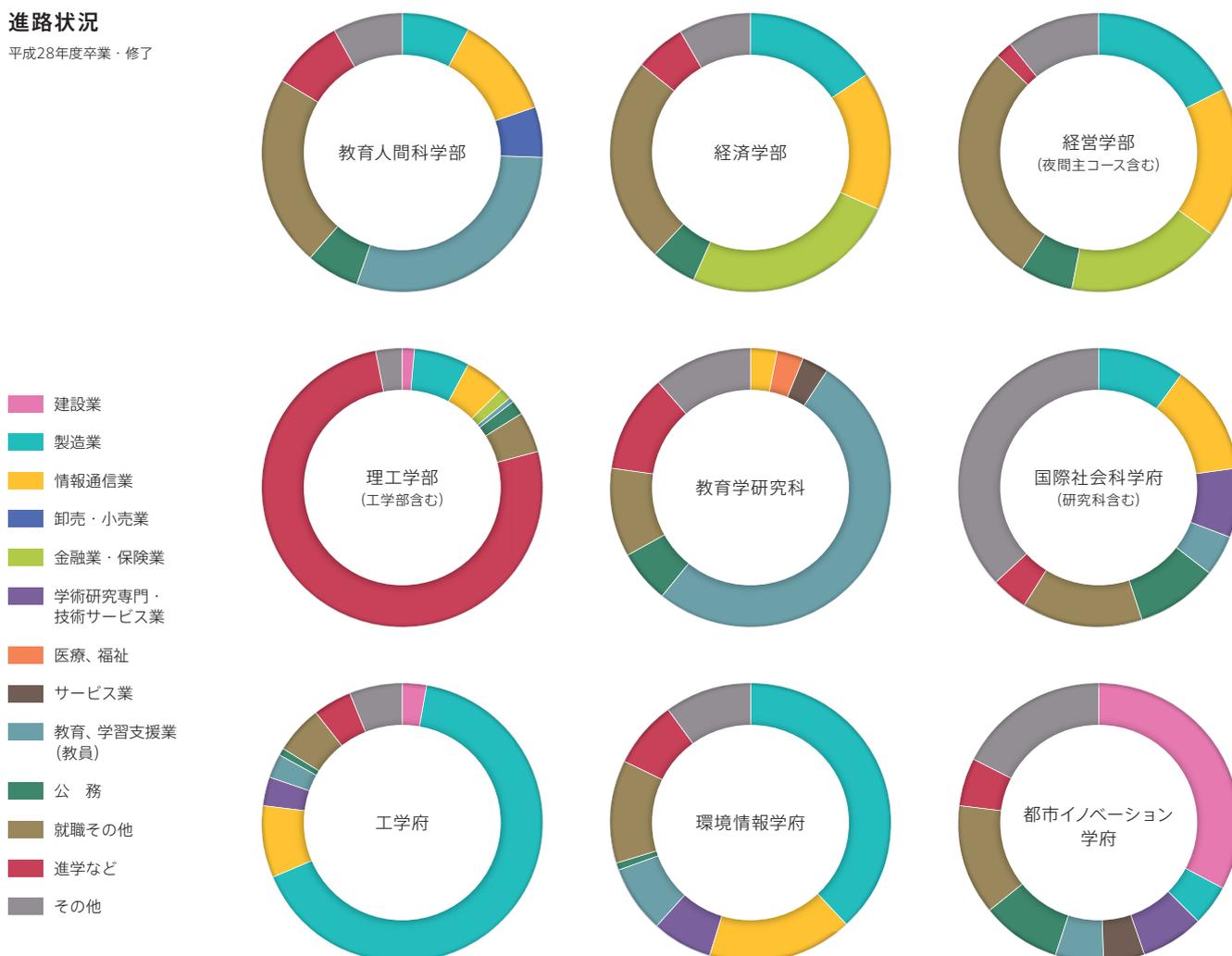
その他の目標

目 標	目標を達成するための措置
グローバル化に関する目標 ● グローバルキャンパスの実現と教育研究の国際展開によるグローバル人材の育成。	● 留学生や外国人研究者の受入体制の強化。 ● 外国人と日本人の間のコミュニケーションを活性化させるための、日本語教育・英語教育の充実。 ● 海外協働教育研究拠点や協定大学との連携による共同教育研究を実施。
附属学校に関する目標 ● 地域や教育委員会と連携した教育実習等の強化。地域と教育課題を共有し、小中高連携教育の研究等を通じ、神奈川県における初等・中等・特別支援教育の先導的役割を果たす。	● 学部と連携して取組んできた先導的な取組を、成果発信型の取組から双方向の地域共創型取組へと発展させ、地域教育界の共創拠点としてイニシアティブを執っていく。 ● 教職大学院の連携協力校として県内教員の養成に貢献し、連携協力校としての取組成果を教職大学院生及び県内教員に普及させる。

横浜国立大学 概要

進路状況

平成28年度卒業・修了



在籍者数

平成29年5月1日現在 (単位: 人) 以下同じ ※留学生数は在籍者数の内数

学部・大学院	課程	在籍者数 (うち女性)	女性比率	留学生数	留学生比率
学部	学士課程	7,458 (2,180)	29.2%	201	2.7%
大学院	修士課程・博士課程前期	1,767 (515)	29.1%	336	19.0%
	博士課程後期	467 (132)	28.3%	156	33.4%
	専門職学位課程	64 (22)	34.4%	—	—
合計		9,756 (2,849)	29.2%	693	7.1%

収入支出決算額など

平成27年度

区分	金額 (百万円)
収入	17,911
支出	17,421
資産	109,343

国際交流状況

平成28年度

区分	国数	人数
学生の海外派遣	41ヶ国	603人
教員等の海外派遣	70ヶ国	1,060人
外国人留学生受入	83ヶ国	1,375人
外国人研究者等受入	36ヶ国	303人

外部資金の受入など

平成28年度

区分	受入件数	金額 (千円)
科学研究費	347	1,084,140
共同研究費	206	395,805
受託研究費	77	1,358,308
寄附金	405	366,787
合計	1,035	3,205,040



詳細は以下URLよりご覧いただけます。

●学長ビジョン

http://www.ynu.ac.jp/ynu_vision/

●中期目標・中期計画

http://www.ynu.ac.jp/about/project/several_years/